2021年度岐阜県演劇大会　二日目　２校目　　≪講評文≫

長良高校『She Stoops to Conquer』

◎　□　△　○　▽　☆　◎　□　△　○　▽　☆　◎　□　△　○　▽　☆　◎　□　△　○　▽

長良高校は「コスプレ賞」です。

西洋の古典劇を丹念に、真正面から取り組んで、きちんと笑わせてくれました。時代も場所もかけ離れた世界なのに、今の若者にも共感できる作品に仕上がっていたからです。

講評委員会では、「海外ドラマのよう。」「ディズニー感があって面白い。」「子どもから大人まで楽しめる。」というようにエンターテインメントとしての質の高さが絶賛されました。それをなしえたのは11人の登場人物のしっかりした演技があったからだと思います。身分、立場、性格、思惑をきちんと表現する、姿勢や身振り、仕草やセリフの細かい口調、ニュアンスまでを作り込んでいったからだと思います。それに加えて時代考証をしっかりとし、衣装や髪型、立ち居振る舞い、道具などを計算して作ってあるからだと思います。

それだからこそ、勘違いによっておこる面白さがきちんと観客に伝わったんだろうと思います。そして、身分ではなくて、人柄を愛するという、現代では当たり前？だけれど、昔の古い階層社会では画期的な恋愛が、やはり感動を呼んだのだと思います。

講評委員会では、テーマについて考えたところ、「そんなことは関係なく楽しめる作品で、面白いからいいのではないか。」という意見がある一方。「いつまでも子ども扱いして、結婚に口出ししてくる親に対して、子どもの自立、親が考える以上に子どもはいろいろなことを考え、親の押しつけに抵抗し、逆らうことで自立していく。」というようなことがテーマではないか、という意見がありました。そう考えると、単なる昔の「懐かしいお話」ではなく、現代に通じる親子の問題、自立の問題を扱っていて、むしろ大人になることの難しさが言われる現代にふさわしい問題を扱っているのではないかと思われました。

いわゆる「コスプレ」で、なんちゃってメイドさん、なんちゃって戦国武将とかなることは可能だけれども、身分や〇〇の一族という確固たるアイデンティティがなくなってしまった現代において、親も物わかりがよくなって自由な現代において、何者かになることの難しさ。だから、あえて古典劇なのだろうか。そんなことまで考えさせる劇でした。

でも、理屈抜きに楽しい劇であることも確かです。長良高校の皆さん、お疲れ様でした。

◎　□　△　○　▽　☆　◎　□　△　○　▽　☆　◎　□　△　○　▽　☆　◎　□　△　○　▽